

# 令和7年度 福井市木田小学校 研究

## 1 研究主題

### 主体的に学び、考えを深める子の育成

## 2 研究主題設定の理由

学習指導要領において、先を見通すことが困難な社会でたくましく生きていくことができる資質・能力を児童に育むことが求められている。また、そのために、児童が「どのように学ぶか」ということを意識し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業をつくることが求められている。

本校の児童の実態として、積極的に学びに向かう姿が見られる児童がいる一方で、自分の意見をもつことや意欲的に発表すること、他の意見を探ることに消極的な児童も見られる。昨年度は、研究主題を「探究心をもって自ら学ぶ子の育成」と設定した。学びを探究する子どもの姿を目指して、本校における「探究の定義」「各学年の探究の流れ」をもとに研究を進めた。その結果、教員がどのような場面で探究的な学習活動（①課題設定、②情報の収集、③整理分析、④まとめ・表現）を設定することができるかを考え実践することで、子ども達に主体的に学ぶ姿が見られるようになった。しかし、児童一人一人を見ると、学習への取組がまだ消極的な児童もあり、一人一人が学習に主体的に取り組み、学びを深めていくということには未だ課題が残っている。

そこで、本年度は本校の強み・弱みの特徴を分析し、下記のような意見が出てきたことと昨年度の課題を踏まえ、研究主題を「主体的に学び、考えを深める子の育成」と設定する。児童の興味・関心を生かした授業、児童が学びに夢中になる姿が見られる授業などを考えていくことで、研究主題に迫りたい。さらに、学びを深めるためには、他者の様々な考え方に触れて考えを広げたり、自分の考えと比べたりすることが大切だと考える。まずは「伝え合う」ことを通して、それらの良さを感じられるような授業づくりについて研究していきたい。また、福井市の学校教育方針が「学びをつなぐ・未来につなげる～『つながる』を大切にされた学校づくり～」と設定されている。伝え合う場面等を工夫することでつながりを大切に、児童の学びを深めていきたい。

教員がこれらのことを意識した授業づくりを行うことで、子どもたちは主体的に学習に取り組み、学びを深める力を身に付けることができると考える。また、本校では学びをつなぐ手立ての一つとして、タブレット端末の活用を進めている。タブレット端末の活用についても、これまでの実践を参考にさらなる活用方法について探していきたい。

さらに、一人一人が「自らの実践を語るができる教師」を目指し、今年度も「一人一研究」に取り組むこととする。

※本校の強み・弱み（R7.4月）

強み	弱み
<b>【児童の実態】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・素直、好奇心旺盛</li><li>・興味や関心のあることに意欲的に取り組む</li><li>・学習への意欲が高い</li><li>・与えられた選択肢の中から自分のしたいことを選んで行うことができる</li><li>・自分の考えを書くことができる（手本・型）</li><li>・話すことが好きな児童が多い</li><li>・ペアやトリオで話すことができる</li></ul>	<b>【児童の実態】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・人数が多く、受け身・人任せになりがち</li><li>・間違いを恐れ、挑戦力や粘り強さに欠ける</li><li>・自分の考えに自信がもてない</li><li>・読み取る力、分析する力が弱い</li><li>・語彙力が低い</li><li>・相手の話を聴くことが苦手</li><li>・発言できる子が固定化し、任せきり</li><li>・話し合いを深める、つなげる力が弱い</li></ul>

### 3 研究の重点内容

#### (1) 研究主題のとらえ方

##### ○「主体的に学ぶ」

教員がすべてを教え込むのではなく、子どもたちが知的好奇心をもって自分事として楽しんで取り組めるような授業づくりを通して「主体的に学ぶ」力を育む。

##### ○「考えを深める」

他者とのかかわりの中で自分の考えとの共通点に気付いたり、自分の考えを見直したりしながら「考えを深める」力を育む。

#### (2) 研究の視点

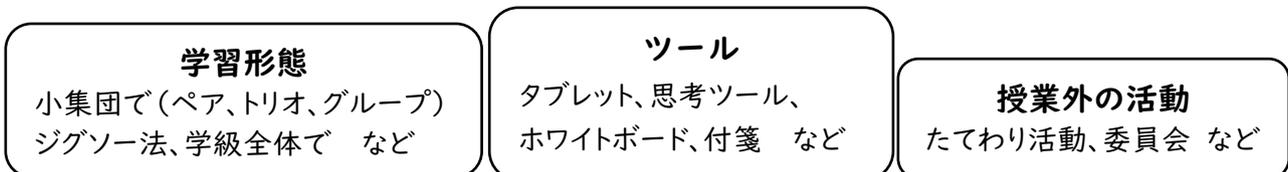
##### ① 授業および単元をつらぬく課題設定の工夫

子どもたち自身が考えたくなる、話し合ってみたくなるような中心となる課題設定が大切である。教師が課題の設定を工夫することで、子どもたちの意欲を駆り立て、聴くことや伝えることの必要性・必然性を感じることができる。

【導入】	【展開】	【終末】
・自分の考えをもつ	・自分の考えを発信（伝える） ・自分の考えと比べる	・振り返る ・自分の考えを整理する ・自分の考えの変容がわかる

##### ② 活動方法の工夫

教師が日常的に「聴く」「伝える」活動方法を工夫していくことで、子どもたちは経験を積み重ねていくことができる。様々な学習形態やツールを活用して、伝え合いの活性化・可視化を図っていく。



※課題や場の設定を工夫するために、「目の前の子どもたちの理解・見取り」をしっかりとっていく。



##### 【具体的な手立て】

- ・子どもたちが自分たちで作りたい、調べたい、伝えたいと思うような課題を設定する。
- ・子どもたちが「なぜ?」「おもしろい!」と感じ、学びを深められるような学習過程を工夫する。
- ・身に付けた知識や技能を活用しながら進めることができる体験学習を設定する。
- ・生活科や総合的な学習の時間等に、初めから教師主導で進めるのではなく、テーマや学習の進め方を児童に考えさせ、見通しをもって児童主体で進めさせる。
- ・調べたり、まとめたり、発信したりする際にタブレット等のICT機器を活用し、児童の学びのイメージが簡単に形になることを実感させ、児童が楽しみながら自ら進んで学べる手立てを増やす。

### ③ 「聴く」「伝える」ための基盤作り

木田小学校の子どもたちの実態や発達段階に応じたポイントを考え指導していく必要がある。自分の考えをもち、発信し、応答し合えるような関係を作る基盤を考えていきたい。

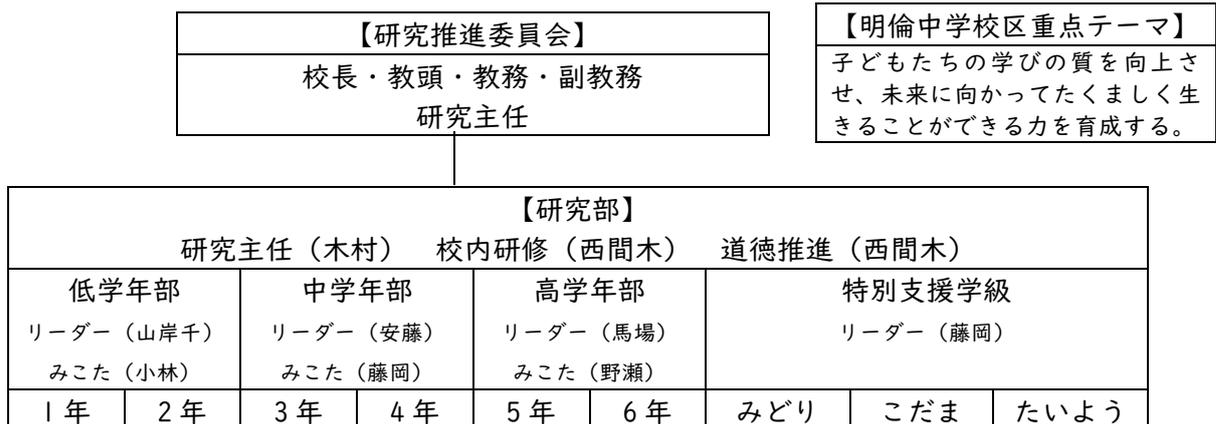
- 各教科における語彙力の向上
- 教師の提示だけでなく、子どもたちから出たことばの中から価値付けし、定着させる言葉の文化づくり
- 話す場を保障（気軽なペアトークや相談など、たくさん話す「量的確保」）
- 相手意識をもたせる（「きいてください」「わかりますか」「どうですか」）
- 聴いてもらう体験（自分の意見や考えが受け入れられていると感じる（安心感）ための「反応（まなざし、うなずき、返事、拍手）」など）
- 教師がモデルとして→子どもの言葉・姿へ
  - ・聴き方（相手に傾聴する姿、多様な考えを受け入れる姿）
  - ・話し方（説明する、つなげる、言い換える、発展させる、問いかける）

### (3) ICT を活用した学習活動の工夫

子どもたちが主体的に学び、考えを深める学習活動の中でタブレット等の ICT 機器を活用する方法について研究する。昨年度の実践を参考にし、各学年の児童の実態を踏まえながら、活用を充実させていく。その際、デジタルとアナログの有効性を考えたり、児童自らがどのように活用するかを選択したりできるようにする。

学習活動	課題設定	情報の収集	整理分析	まとめ・表現
学習内容	単元・教材を受け、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         体験活動                          生活体験                          児童の疑問                          前時との比較                          既習事項                          自分の経験                     </div> ↓ などを踏まえて課題が設定される	図書で調べる インターネットで調べる アンケートを取る インタビューをする 観察や実験をする 動画を撮る 意見を書き出す	話し合う（意見交換） ワークシートに書く 思考ツールを使って整理する 付箋に書いて並べ替える 図や表、グラフにまとめる 視点別に分ける（メリット・デメリット） 技法に着目する	作文に書く 要約する 感想文に書く 発表する プレゼンテーション ポスター発表 新聞発表 動画を作成する 発信する 振り返る
ICT の活用		Forms	Padlet	Keynote Padlet

## 4 研究体制



## 5 研究計画(予定)

	日程	学年	教科	授業者	
前期指導主事訪問 提案授業	7月2日(水)	3年生 (低学年部会)	算数	3年4組	赤井教諭
後期指導主事訪問 提案授業	11月11日(火)	5年生 (高学年部会)	外国語	5年2組	早田教諭
一授業	5～3月	1・2・4・6 年生・みこた			

※一授業の時期は各学年が重ならないように、今後検討していきます。

## 6 研究授業の本数・もち方について

○研究授業の本数・・・指導主事計画訪問での提案授業2本と「一授業」

○授業研究のもち方・・・令和7年度は3、5年

・提案授業は低学年(1～3年)・高学年(4～6年)部会に分かれて研究する。

・提案授業を行わない学年は「一授業」を行う。

〈「一授業」について〉・・・令和7年度は1、2、4、6年、みこた

・どのように授業をするかは学年で相談する。(学年全員でも、学年の代表者でもよい)

・指導案はA4半分程度。単元名、授業者より、本時の展開のみ。研究主題にかかわる部分をゴシック体にする。

・当該学年で事後研究会を行う。参観者は事後研究会に参加する。事後研究会に参加できない場合は感想用紙に記入して授業者に渡す。

・「一授業」のうち1本は見に行く。一時間中ではなく、自分の一番見たい箇所を中心に見てもよい。「一授業」参観に関わらず、積極的に授業を見合う。

○研究協議会のもち方

・研究協議会では板書の写真をグループ1枚ずつ用意し、授業を振り返るときの参考とする。

・小グループで協議をし、その後情報共有をする。最後に「自分の学び」の時間をとる。

## 7 一人一研究について

5月 研究主題「主体的に学び、考えを深める子の育成」のもと、各学年で“目指す児童像”“学年で付けたい力”などを話し合う。その上で、個人または学年で研究テーマを決める。(個人で決めた場合も、各学年会で研究テーマを共有する。)

7月 指導主事訪問① 提案授業者や一般授業者は、研究テーマに沿った授業実践をする。授業の後、作成した指導案の続きに授業の成果と課題を記入しておく。板書やプリントの写真などを残しておく。

8月 中間の振り返り・後期に向けて

成果と課題を各学年で振り返る。その上で、後期に向けての取組を話し合う。11月 指導主事訪問② 提案授業者や一般授業者は、研究テーマに沿った授業実践をする。授業の後、作成した指導案の続きに授業の成果と課題を記入しておく。板書やプリントの写真などを残しておく。

1月末 一人一研究のまとめを書き加えておく。

2月 研究報告会

まとめなどを書き加えた指導案をデータで共有し、報告し合い、来年度の研究に活かしていく。実践集にはまとめずデータを保存する。

## 8 校内研修会について（令和7年度 校内研修会の予定）

○以下のようにKKD（木田研究DAY）を設ける。

日付	研修内容
5月9日（金）	全体研究会
5月26日（月）	エピペン講習
6月9日（水）	シミュレーション訓練・AED研修
6月26日（木）	指導主事計画訪問Ⅰオリエンテーション
7月2日（水）	指導主事計画訪問事後研修（研究協議会）
7月23日（水）	夏季校内研修「ICT研修会」
8月22日（金）	教育相談・不審者対応研修
8月25日（月）	研究中間の振り返り・後期に向けて
8月28日（木）	6年生学力調査分析
11月5日（水）	指導主事計画訪問Ⅱオリエンテーション
11月11日（火）	指導主事計画訪問事後研修（研究協議会）
2月2日（月）	年度末振り返り・報告・5年生SASA分析
3月16日（月）	全体研究会（次年度に向けて）

※日付や研修内容は変更になる可能性があります。